

さんむのふるさと散歩

NO.36

山武市指定文化財に指定された妙宣寺の仏像 6体

平成21年9月に山武市指定文化財に指定されました妙宣寺の仏像について紹介しましょう。

妙宣寺は、山武地区の埴谷に所在し、春には桜が見事に咲き、隣接している長光寺のしだれ桜とともに地域では有名な寺です。毎年桜の開花時期には、市内をはじめ市外からも多くの見学者が訪れます。



▶ 妙宣寺

この妙宣寺の歴史は古く、室町時代（南北朝期）に活躍した当地の豪族埴谷氏の持仏堂として、埴谷重継が氏寺としてが始まりとされます。また、明徳元年（1390年）に妙宣寺として盛大に開堂の供養がされています。

埴谷氏は、下総守護千葉家の家臣として、あるいは関東官領犬懸上杉家の直臣として大きな権力を持ち、妙宣寺からは日英上人などの高僧やその弟子、日親上人などが出家しています。日親といえは「鍋かぶり日親」で有名な人物で、立正治国論を時の將軍足利義教に進言して、將軍の怒りに触れ、焼鍋をかぶせられた



▶ 釈迦如来坐像

ことで知られています。日親はこの怒りに堪えたことよって、「鍋冠日親」と呼ばれるようになったとされます。

仏像6体

妙宣寺本堂に配する仏像は、日蓮宗独自の仏像群として、題目塔を中心に、釈迦如来坐像・多宝如来坐像を一塔両尊とし、四菩薩像坐像を配するものです。菩薩坐像には上行菩薩・無辺行菩薩、浄行菩薩・安立行菩薩が坐像し、写真では新しく見えますが、昭和51年に修復が行われていることにより、しかし、仏像の衣や裳裾の先を台座より下部に垂下している姿が古式で、いわゆる「法衣垂下式」と呼ばれる様式を採用しており、これは鎌倉時代後期から室町時代初期に鎌倉地方で隆盛したもので、これらから推測し、14世紀後半には製作されたものと推定されます。



▶ 多宝如来坐像

仏像6体の物質・構造は、木造ヒノ木の材寄木造りで玉眼嵌入（水晶などの宝石を目に装飾すること）、漆箔仕上げ。

形状は、6体とも頭部螺髪相で体には納衣・偏衫（上半身に着る衣、背中が割れている）腰裳（下半身に巻く衣）着用し、これらの衣の先が、蓮華座上より垂下しています。



▶ 上行菩薩坐像

仏像の坐高は、釈迦如来・多宝如来が約43センチメートルで四菩薩が約29センチメートルです。

また、法衣垂下式の仏像の類例として、千葉県内では茂原市藻原寺の釈迦如来・多宝如来坐像や匝瑳市飯高寺の釈迦如来坐像、山武市宝聚寺の釈迦如来坐像などがあります。

なお、毎年5月に仏像公開を山武仏教文化研究会が主催となり、教育委員会が共催して行っていますので、是非ご覧ください。

問 生涯学習課生涯学習係

☎ 1451